

西尾ロータリー Weekly

2020-21 年度テーマ 第 3020 回例会 令和 2 年 12 月 15 日(火) 天気:晴 No.16



ロータリーは機会の扉を開く

会長 / 天野 卓 幹事 / 羽佐田芳和

クラブ会報委員 岩瀬淳治 / 金原健志 / 星野和幸

例会日:火曜日 12:30 例会場:西尾コンベンションホール

事務局:西尾市永楽町 3-45 西尾信用金庫中央支店内 204

TEL:0563-54-7770 FAX:0563-54-7050 URL:http://www.nishio-rotary.org



【本日のプログラム】

司 会 岩瀬正広 例会運営委員長 斉 唱 「我等の生業」
スピーカー 三河新報社 記者 伊藤哲央 氏 「中世吉良氏物語」～史跡紹介編～

【会長挨拶】



地区よりポリオプラスの関係でマスクを作るお話を頂きました。西尾は全員分のマスクをエントリー・寄付し、本日マスクが届きました。今週・来週でお渡ししたいと思います。例会・地区の大会の時に着用できれば西尾はこれだけ寄付をしたのだというメッセージにもなるのでよろしくお願い致します。

本日の講師は伊藤さんです。元禄14年12月14日、昨日が討ち入りの日でして、本日は本当にタイムリーな話が聞けるとと思います。西尾RCと米沢上杉RCの友好提携も、もとはこの話がきっかけになって動いていますので、本日の話はしっかり聞いて頂きたいと思います。

残念ながらコロナ感染者がまた世界的に増えてしまい、ヨーロッパでは大都市が再び都市封鎖を始めるという話が出ています。特にヨーロッパではクリスマスシーズンの営業停止は大変酷な話ですが、日本でもGOTOトラベルの一時中止など、しばらく混乱が続きますが、自粛をせざるを得ないと思います。経済は動かしていかなければならないけれど、人命第一に考えていかなければいけないと思います。北海道・大阪は遂に自衛隊に医療応援要請を出しました。12月の家族例会は非常に残念ではございましたが、仕方がなかったと思っています。新年1月の例会も本日の理事会で最終的な打合せをしますが、お酒が入る会は難しいと思います。決定しだい改めてお知らせするので、ご理解の程よろしくお願い致します。色々企画を練って頂いた親睦委員会に本当に申し訳ないなという思いでいっぱいです。

息子から一昨日、今夜はふたご座流星群が良く見えるというLINEが来て、女房と2人で空を見るかと話しましたが、夜は寒いので早々に諦めました。娘からはたくさん見えたというLINEがありました。

はやぶさ2が6年間・52億キロの旅を終えて無事帰ってきました。前回は途中で機械が止まったので心配していましたが、今回は予定通りに飛行が出来たということで技術の進歩のすごさを実感しました。JAXAの担当者が「小惑星リュウグウよりははやぶさが玉手箱を持ち帰りました」というお洒落なことを言い、面白い方だと思いました。生命に関する新たな発見があれば面白く、夢がある話だと思いました。

業界や経済団体の新年会も中止の連絡がたくさん入っており、改めて通常の例会が出来ることとこの会場へのありがたみを感じます。今後も皆さんご参加頂いて、元気でいるなど確認して帰って頂ければと思います。

【委員会報告】

〈出席委員会〉萩原竜治委員長

本日の出席数 60名

11月17日のメイクアップ 11名

訂正出席率 100%

食事
「花のれん」



〈スマイルボックス委員会〉榊原茂太郎委員長

天野 卓君 本日は伊藤さん宜しくお願ひ致します。

羽佐田芳和君 三河新報 伊藤哲央様 本日は卓話を宜しくお願ひします。

選挙管理委員会・明推協ポスターコンクール表彰式の記事が地方紙に掲載されました。

山崎周彌君 厚生省からSNSでありがとうの発信を、ロータリーはありがとうとスマイルを。

岡田光祥君 結婚50年になりました。本当に時の流れの早さを感じながら、人と人とのつながりに感謝します。これからも元気に時を重ねて楽しい人生にしたいと思います。今後も宜しくお願ひします。

杉浦義浩君 ご先祖様代々の肖像画の掛軸を掲げて亡父 義夫の七回忌法要を営む事が出来ました。



〔卓話〕

三河新報社 記者 伊藤哲央 氏 「中世吉良氏物語」～史跡紹介編～



来年2021年に吉良氏800年祭を行うため、昨年2月に官民共同の実行委員会が立ち上がりました。1221年に執権北条氏率いる鎌倉幕府と後鳥羽上皇率いる京都の朝廷が戦った承久の乱で幕府が圧勝し、足利義氏が三河の守護職並びに吉良荘地頭に任じられました。この吉良荘地頭を受け継いだ一族が吉良氏です。そのため、承久の乱のあった1221年を吉良氏の発祥と位置づけ、そこからちょうど800年となる2021年に記念事業を行おうと考えています。来年は承久の乱から800年という節目だけでなく、西尾市と幡豆郡が合併してから10周年という節目とも重なります。平安時代の終わりから今の西尾市は吉良荘と呼ばれており、吉良氏は戦国時代までこの吉良荘を治めていました。西尾市と幡豆郡の合併によって吉良荘が復活した形です。江戸時代で見ると、吉良氏は吉良町のお殿様と見られがちですが、鎌倉から戦国時代の中世で見ると西尾市全体のお殿様でもあったことを知ってもらうことも吉良氏800年祭の大きな意義です。

吉良氏は「煌めいた」時代もあれば「嫌われた」時代もあった一族です。鎌倉時代は経済力も豊かで執権北条氏と仲が良く煌めいた時代でしたが、南北朝時代になると足利尊氏に嫌われ、苦しい時代を過ごします。室町時代には足利将軍家の直系断絶に備え、後継ぎが出せる足利御三家の筆頭となり煌めきますが、戦国時代には今川義元に嫌われ没落の憂き目にあいます。吉良氏で何よりも最も有名な吉良上野介義央公は、忠臣蔵というフィクションによって現代まで300年間も嫌われてしまっていますが、近年は汚名返上に向けた動きが進んでいます。西尾城の本丸跡にある御剣八幡宮は、義氏が西尾城を築いた際に別の場所から西尾城内に移したと伝わっており、源氏に代々伝わる宝刀・髭切を収め、ご神体としたことで御剣八幡宮と呼ばれたそうです。吉良氏は義氏の長男、長氏が吉良荘を治めたところから始まります。長氏の息子、満氏が建てた実相寺は三河最古の臨済宗寺で、創建当時は七堂伽藍を備えた大規模な寺でした。この寺が吉良氏の菩提寺として栄えていきます。その後1549年と1555年、西尾城を舞台に義安が2度に渡って今川義元に反逆し、今川義元に嫌われた義安は駿河に幽閉され西尾城は今川氏のものになり、鎌倉時代から330年余り三河吉良荘を治めた吉良氏は領主の座を明け渡すこととなります。1560年に桶狭間の戦いで今川義元は倒れますが、その直前織田信長が西尾方面に攻め込んだ際、吉良氏菩提寺だった実相寺が焼失します。今川家の人質だった後の徳川家康が岡崎城で独立し西三河平定に乗り出した際、義昭はそれに立ちはだかいますが最後は降伏することになります。その後1564年に三河一向一揆に乗じて義昭は再び挙兵しますが敗れて三河国外に落ち延び、吉良氏は三河吉良荘から一旦姿を消しますが、徳川家康が江戸幕府を開いた際、義弥が幕府に登用され吉良家は再興しました。

2021年の吉良氏800年祭を機に、西尾が吉良氏発祥の地であることを発信していきたいです。叶うのであれば、吉良氏発祥の地という石碑も建てたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願ひ致します。